

こころとからだに、  
おいしいものを。



## 2020年度（2021年1月期） 第1四半期 決算概要

---

ダイドーグループホールディングス株式会社  
(東証一部：2590)

2020年5月26日

## 1. 新型コロナウイルス感染拡大への対応と業績への影響 ／通期業績予想

P.03~08

## 2. 2020年度 第1四半期決算概要

P.09~15

## 3. 2020年度 第1四半期 セグメント別概況

P.16~24

こころとからだに、  
おいしいものを。



# 1. 新型コロナウイルス感染拡大への対応と 業績への影響／通期業績予想

---

# 新型コロナウイルス感染拡大への対応状況（事業継続）

- ▶ お客様と従業員の健康・安全を最優先に考慮し、安全衛生管理を徹底
- ▶ お客様に安全・安心な商品をお届けする社会的役割を果たすべく事業継続を推進
- ▶ 商品の安定供給にかかわる問題は、現時点においては発生していない

						各セグメントの事業期間
		1月	2月	3月	4月	5月
<b>日本国内</b>				2/26 大規模のイベント自粛要請 2/27 小・中・高校の休校要請	4/7～ 緊急事態宣言（7都道府県） 4/16～ 緊急事態宣言（全国） → 5/25 解除	
持株会社		1/21	～	～	4/20	
				・海外渡航禁止、時差出勤推奨	・本社事務所等は原則在宅勤務（5/31まで継続）	
国内飲料事業		1/21	～	～	4/20	
				・海外渡航禁止、時差出勤推奨	・本社事務所等は原則在宅勤務（5/31まで継続） ・自販機のオペレーション担当は交代勤務（5/31まで継続）	
医薬品関連事業		1/21	～	～	4/20	
				・営業拠点は原則在宅勤務口 ・工場は感染防止対策を講じた上で通常稼働		
食品事業		1/1	～	～	3/31	
				・営業拠点は原則在宅勤務口 ・工場は感染防止対策を講じた上で通常稼働		
<b>海外飲料事業</b>		1/1	～	～	3/31	
						(4/23～5/23 ラマダン)
トルコ事業					3/27～ 国際線発着禁止、国内移動制限 → 4月末より徐々に緩和 4/3～ 20歳以下、65歳以上の外出禁止	
					・オフィスはリモートワーク（工場は稼働）	
マレーシア事業					3/18～活動制限令による政府・民間施設等の閉鎖 → 5月に入り、徐々に緩和 ・オフィス閉鎖（商品供給は継続） → 5/4～政府の許可を受け通常稼働	

# 新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響について

▶ 第1四半期業績への影響は比較的軽微も、当期業績への影響は不可避

	第1四半期実績の状況	今後想定される主な影響
国内飲料事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府による緊急事態宣言等による外出自粛の動きが拡大し、主に自販機チャネルの売上高に影響</li> <li>広告販促費や自販機にかかる減価償却費等の減少により増益 (P.13)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外出自粛、在宅勤務の長期化による飲料需要の減少</li> <li>顧客企業の在宅勤務拡大により、新規ロケーションへの自販機設置が一部遅延</li> </ul>
海外飲料事業	<p><u>トルコ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミネラルウォーターの需要が高く、売上・利益は大きく伸張</li> </ul> <p><u>マレーシア</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1四半期（1～3月）は増収で推移</li> </ul>	<p><u>トルコ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>為替変動による原材料高騰に対し、価格転嫁が難しい経済情勢であることから、利益面に影響</li> <li>イギリス、ロシアへの輸出強化の取り組みは遅延する見通し</li> </ul> <p><u>マレーシア</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3月中旬からの厳しい行動制限により、売上・利益に影響</li> </ul>
医薬品関連事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国本土向け美容ドリンクの受注減少はあるものの、第1四半期の業績への影響は比較的軽微</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国向け美容ドリンクの受注見通しが不透明、国内向けも外出自粛等の動きが今後の受注に影響する可能性</li> <li>関東工場の本稼働は7月にずれ込む見通し</li> </ul>
食品事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1四半期（1～3月）の販売は堅調、多面的なコスト改善の取り組みの成果により、利益は増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内食需要の増加はあるものの、流通チェーンの来店客数減少や販促自粛による影響が懸念される</li> </ul>

# 通期業績予想について

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、内外経済の減速による当社業績への影響は拡大するリスクがあるものの、終息時期の見通しは不透明
- ▶ 現時点において、新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響額を合理的に見積もることは困難
- ▶ 通期業績予想は、一旦「未定」とし、算定が可能となった段階であらためて公表

単位：百万円

	2019年度 実績		2020年度 通期予想 (今回発表)		2020年度 通期予想 (期初発表)			
		構成比		増減額		構成比	増減率	増減額
売上高	168,256	100.0%	—	—	169,000	100.0%	0.4%	743
営業利益	2,893	1.7%	—	—	2,300	1.4%	△20.5%	△593
経常利益	2,857	1.7%	—	—	2,400	1.4%	△16.0%	△457
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,778	1.1%	—	—	1,400	0.8%	△21.3%	△378
E P S	108.00円		—		84.99円		△21.3%	△23.01円
1株当たり配当金	60円		60円		60円		-	-

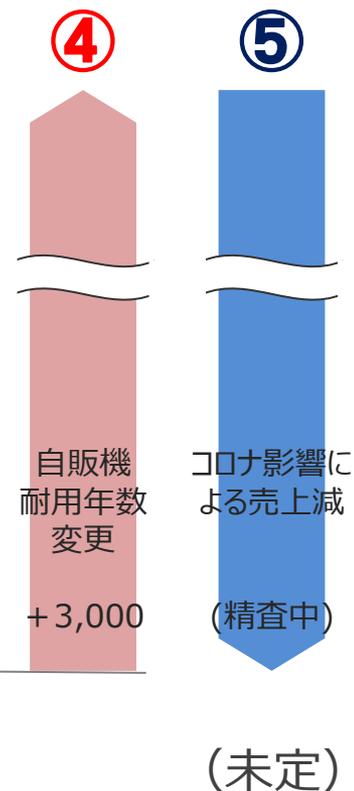
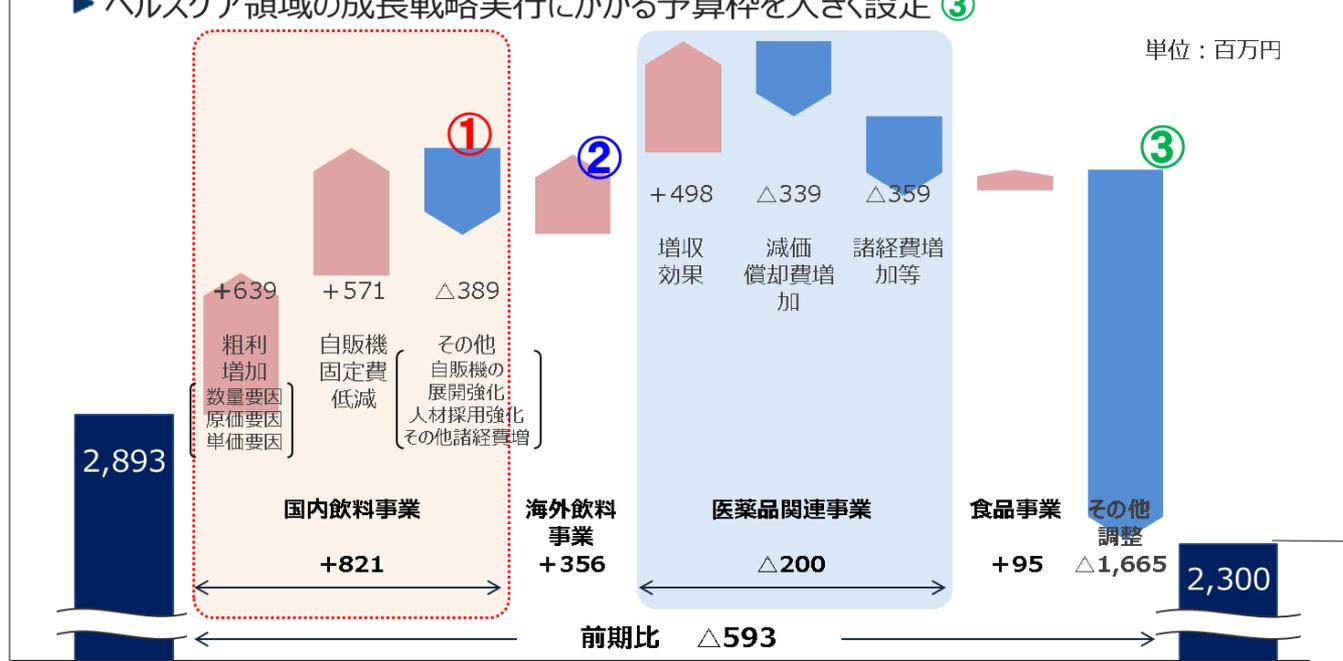
# 2020年度 通期業績予想 営業利益の増減要因 - 前期比 -

- ▶ 自販機の耐用年数変更により、減価償却費が計画比約30億円減少 **④**
- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大による売上影響は、現時点では不透明 **⑤**

## 期初計画 (2020年3月4日公表)

単位：百万円

- ▶ 国内飲料事業は収益力回復に向けて、自販機展開・人材採用を積極化 **①**
- ▶ 海外飲料事業はトルコ事業の着実な成長と、マレーシア事業の変革を推進 **②**
- ▶ ヘルスケア領域の成長戦略実行にかかる予算枠を大きく設定 **③**



2019年度実績

2020年度期初計画

2020年度計画

# コロナショック後の社会の変化を見据えて

- ▶ 「グループミッション2030」に掲げた当社グループのあるべき姿の実現に向けて 社会の大きな変化を新たな事業機会と捉え、持続的成長と中長期的な企業価値向上をめざす

## 世界中の人々の楽しく健やかな暮らしを クリエイトするDyDoグループへ

<p><b>DyDoはお客様と共に。</b></p> <p> <b>お客様の健康をつくります</b> おいしさへの飽くなき探求心のもと、世界中のお客様の健康や生活の質向上に貢献する商品・サービスをお届けします。</p>	<p><b>DyDoは次代と共に。</b></p> <p> <b>次代に向けて新たな価値を生み出します</b> 革新的なテクノロジーを活用し、すべてのステークホルダーにワクワクや驚きといった体験を提供します。</p>
<p><b>DyDoは社会と共に。</b></p> <p> <b>社会変革をリードします</b> 持続可能な社会のために、常識に捉われず、新たな視点から社会変革を自らリードします。</p>	<p><b>DyDoは人と共に。</b></p> <p> <b>人と人のつながりをつくります</b> グループ内外と柔軟に連携し、多様な価値観や能力を尊重しながら新たな共存共栄を推進します。</p>

機会

健康・予防意識の高まりに対応した飲料・医薬品・食品の垣根を超えた市場の創造

リスク

機会

在宅ワークの定着やお客様の行動変容による自販機市場の変化

こころとからだに、  
おいしいものを。



## 2. 2020年度（2021年1月期） 第1四半期 決算概要

---

# 2020年度 第1四半期 連結決算の概要

- ▶ 第1四半期の連結売上高は、374億13百万円（前年同期比5.6%減）
- ▶ 自販機の耐用年数の変更により、営業利益は7億41百万円

▶ P.13

単位：百万円

	2019年度第1四半期		2020年度第1四半期			
		構成比		構成比	増減率	増減額
売上高	39,633	100.0%	37,413	100.0%	△5.6%	△2,219
営業利益	△113	△0.3%	741	2.0%	-	854
経常利益	△149	△0.4%	559	1.5%	-	708
親会社株主に帰属する 四半期純損失	△322	△0.8%	△38	△0.1%	-	283
EPS	△19.56円		△2.36円		-	17.20円
1株当たり配当金	60円		60円		-	-

# 2020年度 第1四半期 連結業績 (セグメント別)

- ▶ 緊急事態宣言などによる外出自粛の影響により、国内飲料事業は減収
- ▶ 海外飲料事業・医薬品関連事業・食品事業の第1四半期業績への影響は限定的

単位：百万円

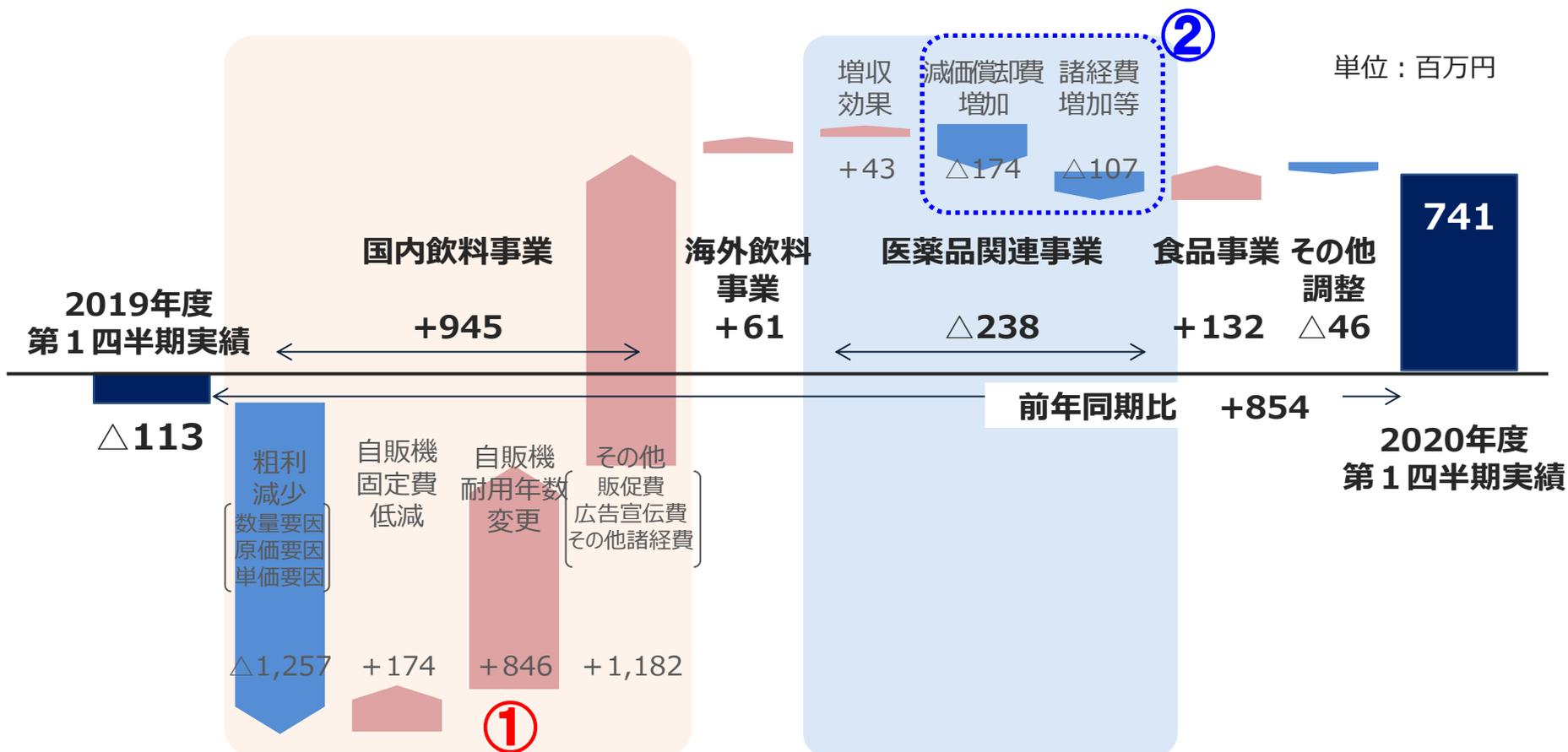
	2019年度 第1四半期	2020年度第1四半期		
		増減率	増減額	
国内飲料事業	29,143	26,662	△8.5%	△2,481
海外飲料事業	3,402	3,551	4.4%	148
医薬品関連事業	2,887	2,900	0.4%	12
食品事業	4,398	4,497	2.2%	98
調整額	△199	△197	—	1
売上高合計	39,633	37,413	△5.6%	△2,219

国内飲料事業	△74	870	—	945
海外飲料事業	1	62	—	61
医薬品関連事業	230	△8	—	△238
食品事業	66	199	198.8%	132
その他	—	△39	—	△39
調整額	△336	△343	—	△6
営業利益合計	△113	741	—	854

※「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、希少疾病の医療用医薬品事業です。

# 2020年度 第1四半期 営業利益の増減要因

- ▶ 国内飲料事業は自販機耐用年数の変更により大幅増益 ①
- ▶ 海外飲料事業・食品事業は収益性を改善
- ▶ 医薬品関連事業は、関東工場の竣工（2019年10月）等により償却負担等が増加 ②



# 自販機の耐用年数変更による減価償却費への影響

- ▶ 2014年から取り組んだ自販機チャネルのコスト改善改革により、自販機の使用年数が伸張していることに対応し、耐用年数（減価償却期間）を変更

従来の耐用年数                      5年（法定耐用年数）

➡ **変更後の耐用年数**                      **10年**（現在の平均使用年数10年以上）

## ● 耐用年数変更に伴う影響額

単位：百万円

		2019年度 通期実績	2020年度通期見込み	
			増減率	増減額
<b>変更なし</b>	設備投資額	16,543	8,306	△49.8% △8,237
	減価償却額	9,647	9,974	3.4% 327
<b>期初 計画</b>	うち 国内飲料	7,148	6,577	△8.0% ▲571
	減価償却額	9,647	6,974	△27.7% ▲2,673
<b>変更 後</b>	うち 国内飲料	7,148	3,577	△50.0% ▲3,571

## ● 変更に伴う影響

- ✓ コスト低減効果は概ね2026年度まで発生
- ✓ 利益の増加により法人税額が増加  
⇒連動して営業CFが減少

## 自販機のコスト改善にかかる これまでの取り組み

- ✓ 使用機種 of 絞り込みによる調達コストの低減
- ✓ フロントベンダー（引上自販機の冷却ユニットの入替やラック等の再利用による再生自販機）の投入
- ✓ 部材・部品の再利用の徹底



# 財政状態 – 連結貸借対照表の主な増減 –

- ▶ 金融資産・純資産の減少の主な要因は、剰余金の配当や自己株式の取得による
- ▶ 売上債権・棚卸資産の増減は季節的変動

(単位：百万円)

金融資産 <sup>※1</sup>	73,240	有利子負債 <sup>※2</sup>	33,713
売上債権	18,497	仕入債務	18,623
たな卸資産	8,444	その他	21,835
有形固定資産 ・無形固定資産	50,831	純資産	89,210
その他	12,369		
<b>資産計</b>	<b>163,383</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>163,383</b>

2020年1月20日

(単位：百万円)  
下段数値は前年比増減

金融資産 <sup>※1</sup>	67,863 △5,376	有利子負債 <sup>※2</sup>	35,665 1,951
売上債権	19,993 1,495	仕入債務	20,481 1,857
たな卸資産	10,645 2,200	その他	21,131 △703
有形固定資産 ・無形固定資産	50,732 △98	純資産	86,003 △3,207
その他	14,047 1,677		
<b>資産合計</b>	<b>163,282</b> △101	<b>負債純資産合計</b>	<b>163,282</b> △101

2020年4月20日

※1：現金及び預金、有価証券、投資有価証券（関係会社株式を除く）、長期性預金

※2：短期/長期借入金、短期/長期リース負債・債務、社債、長期預り保証金

# 自己株式の取得（2020年3月31日公表）

▶ 経営環境の変化に対応し、機動的な資本政策及び株主価値向上を目的に、自己株式を取得

● 取得に係る事項の内容

- (1) 取得対象株式の種類 : 当社普通株式
- (2) 取得する株式の総数 : 828,000 株（上限）  
(発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 5.0%）
- (3) 株式取得価額の総額 : 30 億円（上限）
- (4) 取得期間 : 2020 年 4 月 1 日～6 月 30 日
- (5) 取得方法 : 信託方式による市場買付

こころとからだに、  
おいしいものを。



### 3. 2020年度（2021年1月期） 第1四半期 セグメント別概況

---

# 国内飲料事業 セグメント別概況

▶ 4月の緊急事態宣言により、外出自粛の動きが拡大し、売上に影響

単位：百万円

	2019年度1Q実績		2020年度1Q実績			
		構成比		構成比	増減率	増減額
売上高	29,143	100.0%	26,662	100.0%	△8.5%	△2,481
営業利益	△74	-	870	3.3%	-	945
減価償却費	1,852		830		△55.1%	△1,021

(対象期間：1月21日～4月20日)

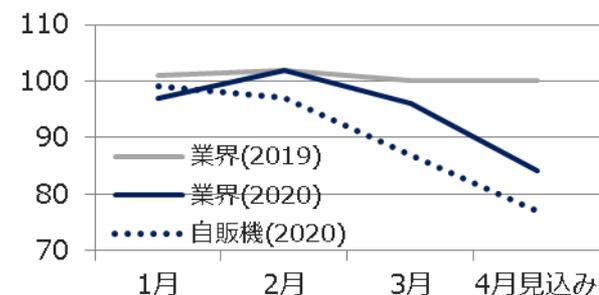
- ✓ 自販機の耐用年数の変更や、広告販促費の減少により増益
- ✓ 自販機ビジネスの基盤強化に向けた人材は確保も、新規設置場所確保のための営業活動が一部遅延
- ✓ 外出自粛による販売機会消失の長期化、生活スタイルの変化（在宅ワークの定着、非対面販売の再評価等）を想定し、予算の見直しを含めた準備を進める

● チャネル別前年比販売数量（本数ベース）

四半期推移	2月度	3月度	4月度	1Q	5月度
自販機チャネル	93.9%	94.1%	84.6%	90.6%	84.9%
流通チャネル	90.6%	97.3%	89.7%	92.5%	89.5%
合計	93.4%	94.8%	85.7%	91.0%	85.8%

事業月度：前月21日～当月20日（例：4月度：3月21日～4月20日）

● 清涼飲料市場前年同期比（出荷ベース）



出典：飲料ビジネス

### ▶ 自販機の新規設置場所開発の強化

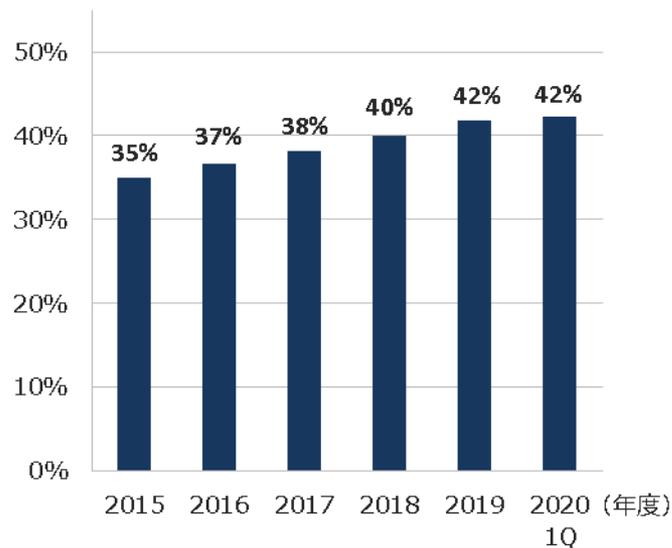
- ✓ 自販機網の維持に向けた取り組みを加速するための営業体制の強化は進捗
  - ✓ 直販においては、新規設置台数は前年を上回るも足元では営業活動が実質的にストップ
  - ✓ 直販・共栄会※ともに自販機の引上抑止活動に効果
- ※主に地方エリアのガイドー自販機のオペレーションを担う代理店組織

### ▶ 自販機設置後のオペレーションの効率化

(一人当たりの担当台数の増加により、生産性向上をめざす)

- ✓ テスト営業所で一定の生産性向上を実現
- ✓ オンライン対応機の拡大を進める

#### クローズドロケーション比率の推移



営業所でプレテストを実施

済

対象営業所の拡大

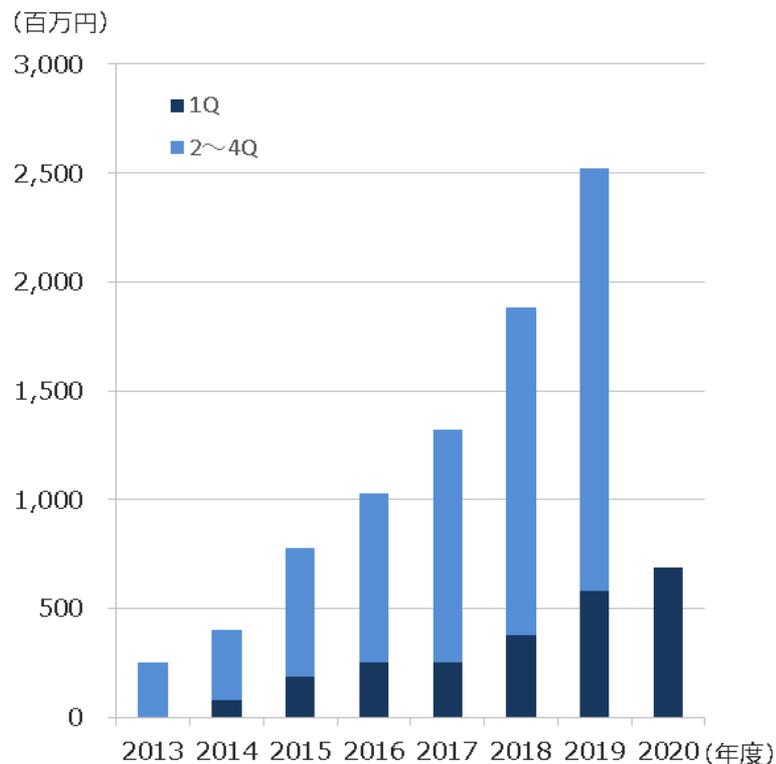
実施中

展開規模の検討

## ▶ サプリメントの通信販売チャネルは着実に成長

✓ 通販モデルのため、新型コロナウイルス感染拡大の影響は小さい

### ● 通信販売チャネルの売上推移



### ● 基幹商品「ロコモプロ」を中心にラインアップを拡充



▶ コロナ禍による第1四半期業績への影響は軽微も、3月下旬以降深刻化

単位：百万円

	2019年度1Q実績		2020年度1Q実績			
		構成比		構成比	増減率	増減額
売上高	3,402	100.0%	3,551	100.0%	4.4%	148
営業利益	57	1.7%	110	3.1%	91.8%	52
のれん等償却額	56	1.6%	47	1.3%	△15.0%	△8
のれん等償却後営業利益	1	0.0%	62	1.8%	-	61
トルコリラ	20.57円		17.48円		▲ 3.09円	
マレーシアリングgit	27.05円		25.98円		▲ 1.07円	

(対象期間：1月1日～3月31日)

● トルコ飲料事業

- ✓ コロナ禍の影響は比較的遅く、第1四半期の売上・利益は大きく伸張
- ✓ 経済の減速と為替変動のリスクが高まる
- ✓ 海外渡航禁止措置等の影響により、イギリス・ロシアへの輸出強化の取り組みは遅延する見通し

● マレーシア飲料事業

- ✓ 自社ブランドの売上の基盤はできつつあったが、3月中旬からはじまったロックダウンにより環境が激変
- ✓ 厳しい行動制限により、第2四半期以降の売上・利益への影響は不可避
- ✓ 回復期に向け、社内体制の整備に注力

## ▶ トルコ飲料事業

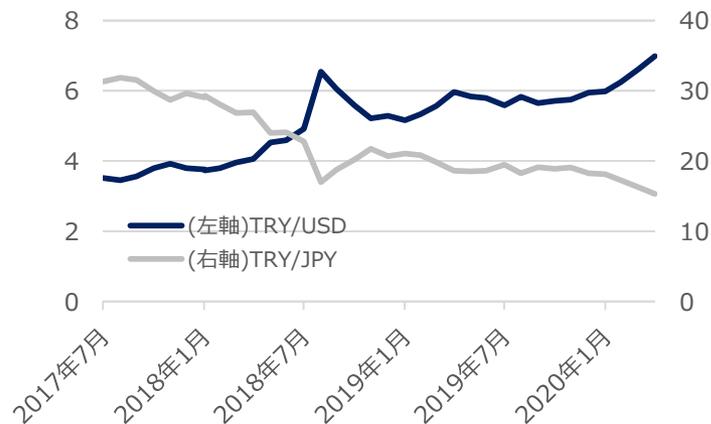
- ✓ ミネラルウォーターが好調な販売を維持し、第1四半期の売上高は現地通貨ベースで前期比19%増
- ✓ 新型コロナウイルスが世界へ拡大する中で、リラ安が進行。輸入原材料の価格が高騰も、販売価格への転嫁は困難な状況

現地通貨ベース実績			第1Q	第2Q	第3Q	第4Q	累計
2020年度	売上前年比	四半期	+19%				+19%
	為替(1トルリラ)	累計実績	17.48円				(期初想定)18円
2019年度	売上前年比	四半期	+30%	+17%	+2%	+15%	+14%
	為替(1トルリラ)	累計実績	20.57円	19.63円	19.40円	19.26円	19.26円



ミネラルウォーターブランド  
**Saka** (サカ)

### ● 為替の推移



▶ 受託ビジネスであり、コロナ禍の影響は第2四半期以降に顕在化の可能性

単位：百万円

	2019年度1Q実績		2020年度1Q実績			
		構成比		構成比	増減率	増減額
売上高	2,887	100.0%	2,900	100.0%	0.4%	12
営業利益	230	8.0%	△8	-	-	△238
減価償却費	124		299		139.7%	174

(対象期間：1月21日～4月20日) I

- ✓ 医薬部外品は堅調に推移も、美容系ドリンクのTCI経由の中国向け輸出製品の受注が落ち込み、売上は前年並
- ✓ 奈良工場のパウチラインの新設（2019年9月）、関東工場の竣工（2019年10月）により、減価償却費が増加し、減益
- ✓ 外出自粛・在宅ワークの影響により、取引先の店舗販売が低調で在庫調整が発生する可能性や、中国市場向けの美容ドリンクの受注が見通せず、先行きに不透明感
- ✓ 2019年10月に竣工した関東工場（群馬県館林市）は、コロナ禍の影響で公的手続きに遅れが生じ、本稼働時期が7月にずれ込む見通し
- ✓ 緊急事態宣言下で、営業活動に支障があるものの、新工場・新ラインへの取引先からの期待は高く、経済活動再開後の体制整備を進める

## ▶ コロナ禍の影響は比較的軽微も、今後の動向には注視

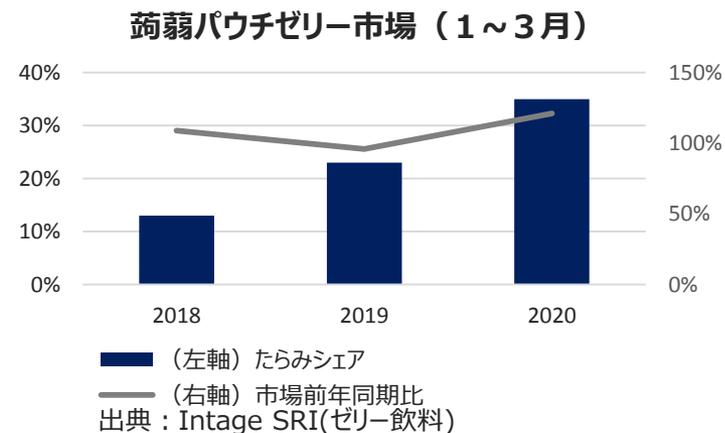
単位：百万円

	2019年度1Q実績		2020年度1Q実績			
		構成比		構成比	増減率	増減額
売上高	4,398	100.0%	4,497	100.0%	2.2%	98
営業利益	154	3.5%	287	6.4%	85.6%	132
のれん等償却額	88	2.0%	88	2.0%	0.0%	0
のれん等償却後営業利益	66	1.5%	199	4.4%	198.8%	132

(対象期間：1月1日～3月31日) |

- ✓ 利益率の改善効果により、微増収ながら大幅増益
- ✓ パウチゼリーは引き続き市場シェアを拡大
- ✓ 在宅ワークによるCVSの需要の落ち込みや、量販店においては主食系商品購入の優先により、コロナ禍における今後の販売動向は精査が必要
- ✓ 生産性向上への取り組みを引き続き進め、さらなる収益力強化をめざす

### ● パウチ市場の売上推移



# セグメント別季節変動

## 売上高 / セグメント売上高

単位：百万円

		1Q	2Q	3Q	4Q	計
連結	2019年度	39,633	45,805	45,486	37,331	168,256
		<b>23.6%</b>	<b>27.2%</b>	<b>27.0%</b>	<b>22.2%</b>	<b>100.0%</b>
	2020年度	37,413	-	-	-	-

## 営業損益 / セグメント損益<sup>※</sup>

単位：百万円

		1Q	2Q	3Q	4Q	計
	2019年度	△113	2,146	1,936	△1,076	2,893
		-	<b>74.2%</b>	<b>66.9%</b>	-	<b>100.0%</b>
	2020年度	741	-	-	-	-

国内飲料	2019年度	29,143	31,666	32,336	28,056	121,203
		<b>24.0%</b>	<b>26.1%</b>	<b>26.7%</b>	<b>23.1%</b>	<b>100.0%</b>
	2020年度	26,662	△ 26,662	-	-	-
海外飲料	2019年度	3,402	4,606	4,700	3,295	16,004
		<b>21.3%</b>	<b>28.8%</b>	<b>29.4%</b>	<b>20.6%</b>	<b>100.0%</b>
	2020年度	3,551	-	-	-	-
医薬品関連	2019年度	2,887	2,866	2,852	2,491	11,097
		<b>26.0%</b>	<b>25.8%</b>	<b>25.7%</b>	<b>22.4%</b>	<b>100.0%</b>
	2020年度	2,900	-	-	-	-
食品	2019年度	4,398	6,869	5,754	3,621	20,643
		<b>21.3%</b>	<b>33.3%</b>	<b>27.9%</b>	<b>17.6%</b>	<b>100.0%</b>
	2020年度	4,497	-	-	-	-
その他	2019年度	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
	2020年度	-	-	-	-	-

	2019年度	△74	1,750	1,745	527	3,948
		-	<b>44.3%</b>	<b>44.2%</b>	<b>13.4%</b>	<b>100.0%</b>
	2020年度	870	-	-	-	-
	2019年度	57	182	173	△509	△95
		-	-	-	-	<b>100.0%</b>
	2020年度	110	-	-	-	-
	2019年度	230	127	69	△216	210
		<b>109.2%</b>	<b>60.6%</b>	<b>32.9%</b>	-	<b>100.0%</b>
	2020年度	△8	-	-	-	-
	2019年度	154	595	361	△295	816
		<b>18.9%</b>	<b>72.9%</b>	<b>44.3%</b>	-	<b>100.0%</b>
	2020年度	287	-	-	-	-
	2019年度	-	0	△103	58	△45
		-	-	-	-	<b>100.0%</b>
	2020年度	△39	-	-	-	-

※海外飲料事業、食品事業はのれん等償却前のセグメント利益